

論文投稿のいろは

大垣昌夫

1. 論文執筆

研究テーマの選択

1. 自分の興味
2. 現時点での自分の研究知識・技術の比較優位
3. 流行を含む経済学研究に対する需要（例えば、研究テーマに興味を持ちそうな雑誌はあるか）

について、この優先順位で考える。

英文論文の書き方

- 「論文の流れ」と「英語」そのものは分けて考える
- 通常は論文の流れについては、特に学会やワークショップのプレゼンの準備段階とそのあとに他の研究者と相談する
- 通常は英語については校正業者に依頼する。研究者向けのEnglish Editingをしているところが望ましい

2. 論文投稿

論文投稿先

- 通常はターゲットの雑誌より、1ランク上の雑誌に投稿する
- Rejectされてもコメントを参考にしてターゲットの雑誌に投稿できるメリットがある
- Rejectされて時間がかかってもランクの高い雑誌をターゲットとする論文と、自分の分野での着実な研究ができるというreputationを確立するために堅実にターゲットを低めに設定する論文に分けて考えておく

基本的なこと

- 経済学でのカバーレターの書き方、投稿して返事が来ないときの問い合わせのことなど、Hamermesh, Daniel S. 1992. "The *Young Economist's Guide* to Professional Etiquette." *Journal of Economic Perspectives*, 6(1): 169–179. を参照すればよい
- ただしファイナンスでは、エチケットが異なることもあるようなので注意

Rejectされた場合

- 大垣の場合、最初の投稿でrejectされる率が8割程度
- がっかりしないで早めに次の雑誌に投稿することが最重要
- 短期間に明らかに論文を改善するコメントをもらった場合は、参考にして改訂する

Revise-and-Resubmitをもらった場合

- 基本的には、他の研究プロジェクトは一時停止して、当該論文の改訂を第1優先とする
- 改訂時に修正不能なミスを発見したり、ロバストネス・チェックでこれまでの結論と大きく変わる結果が出た場合、研究者倫理を最優先して、新しい結果をもとに論文を書き換える。論文に全く新しい方向性を考える必要が生じる場合もある